

今、子どもに伝えたい

配布資料(一部抜粋)

包括的な性の知識・学校でできること



Siblings合同会社 CEO
家庭でできる性教育サイト「命育」代表
宮原 由紀

サービス概要「命育(めいいく)」

幼児期から思春期の子どもを持つ保護者・子どもに関わる職業の方に
性教育情報を発信する Web サイト



- ・包括的な性のテーマ
- ・医師専門家 30名監修
- ・具体的なQ&A 300本以上
- ・月間 50万閲覧数 以上

<https://meiku.com/>

1. 命育について

ワークショップや出張講演、教材開発などを通じて
子どもに性の知識を届ける活動をしています



全国で講演会・研修会を実施

- ・親子ワークショップ
- ・園や学校、PTA等への出張講演
- ・教職員、医療従事者への研修会 など



実績・詳細紹介

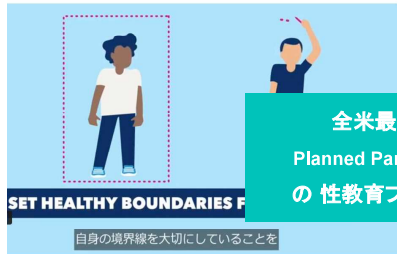


働きながらプライベートゾーンや好きなものを学ぶ親子ワークショップ



10代が「健康的な関係性」を学ぶ教材

海外団体との提携



全米最大規模の医療系非営利団体
Planned Parenthood (全米家族計画連盟 1916年創立)
の性教育プログラムの翻訳・コンテンツ利用

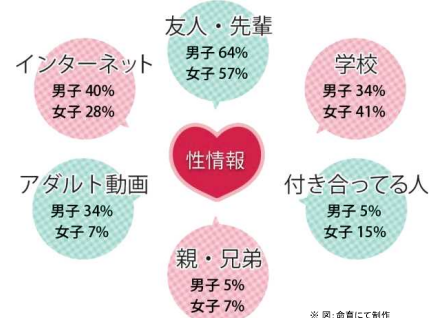
自身の境界線を大切にしていることを

インターネットが「性」の情報源

高校生の主な「性交」情報源

<男子>
友人・先輩
インターネット
アダルト動画、学校

<女子>
友人・先輩
学校
インターネット



参考:「若者の性」白書—第8回青少年の性行動全国調査報告—
日本性教育協会編(2019年)

※ 図:命育にて制作

2. 子どもを取り巻く「性」のリスク

SNS起因による性被害

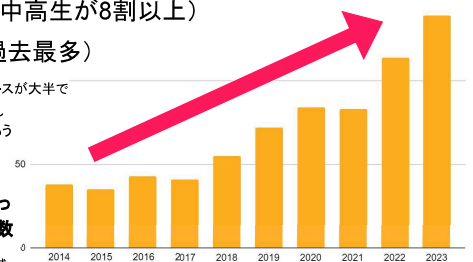
SNSがきっかけとなって性犯罪など含めた事件に巻き込まれた子ども(2023年)

18歳未満 **1665人**(中高生が8割以上)
小学生 **139人**(過去最多)

※ 被害児童が最初の投稿をしたケースが大半で
趣味や日常生活などについて投稿し
加害者からの接触を受け、被害にあう

右: SNS起因で犯罪被害にあった小学生人数

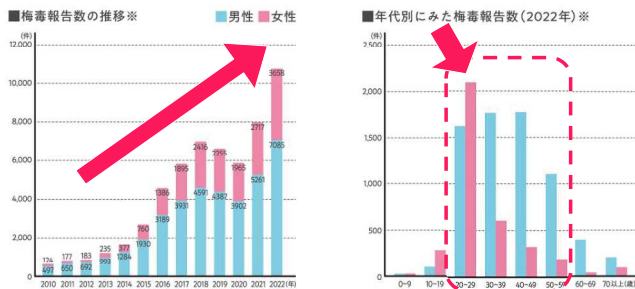
参考: 警察庁による報告(2023)をもとにグラフ作成



若者に拡大する性感染症(特に梅毒)全国

近年急拡大する梅毒の報告数は、2023年に**過去最多の1万4906人**に(2024年1月速報値)
男性は20~50代、女性は20代が多い

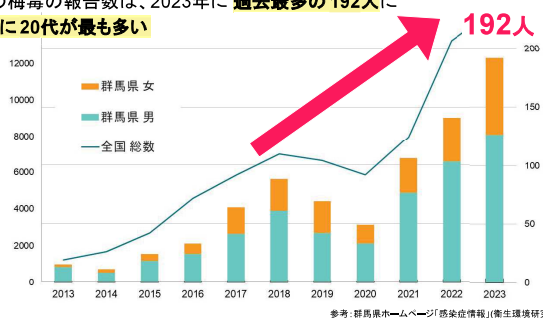
出典:厚労省ホームページ「性感染症 | 梅毒」



2. 子どもの成長期別 保護者の悩み

若者に拡大する性感染症(特に梅毒)群馬県

群馬県の梅毒の報告数は、2023年に**過去最多の192人**に
男女ともに20代が最も多い



参考:群馬県ホームページ「感染症情報(衛生環境研究所)をもとにグラフ作成



幼児期

保護者が抱える疑問・悩み

- 「赤ちゃんって、どこからくるの?」と聞かれました。どう答えたらいい?
- 幼児の子どもの自慰行為を目撃し叱ってしまいました。どう対応すればよかったですでしょうか?
- 幼児からの性教育が大事というけれど、何から始めたらいい?
- 小さな子どもに防犯の知識をどのように教えたらいい?

日常生活での疑問や悩み・予防としての知識

※命育に聞く声から紹介



児童期
7歳~10歳頃

保護者が抱える疑問・悩み

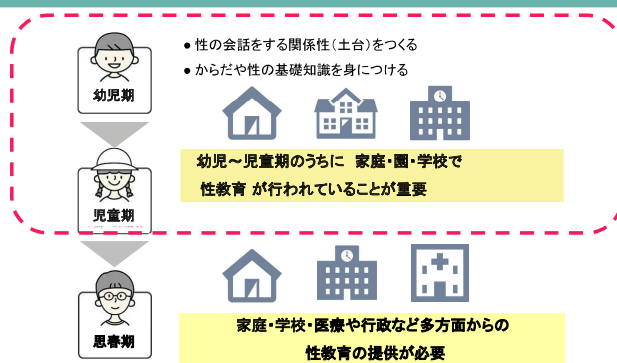
- 友だちにプライベートゾーンを見られた、触られた(見た、触った)
- うちの子、友達と比べて成長が遅すぎる?(または)早すぎる?
- 学校で受精については習ったが「卵子と精子はどうやってであうの?」と妊娠の仕組みについて知りたがようになった
- 学校や家庭のタブレット端末でエッチな動画をみていた...

プライベートゾーンのトラブル・

身体の発達・具体的な質問への答え方

※命育に聞く声から紹介

思春期は多方面からの性教育が重要に



思春期

保護者が抱える疑問・悩み

「ごく普通の子だと思っていたのに ...」

- 息子が、女の子と性的な画像を送り合っていた
- 不特定多数の男性と性行為をしていることを知りショック
- 子どもが加害(痴漢、盗撮、その他性暴力)をしてしまった
- 子ども本人・パートナーが妊娠をした/したかもしれない
- 子どもと性の話をしないとと思うが、今さらできない...

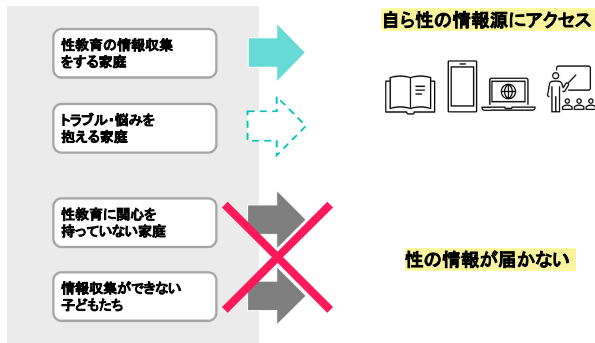
性犯罪・性暴力、妊娠への不安などが加わる

「今さら性の話ができない」という声

※命育に聞く声から紹介

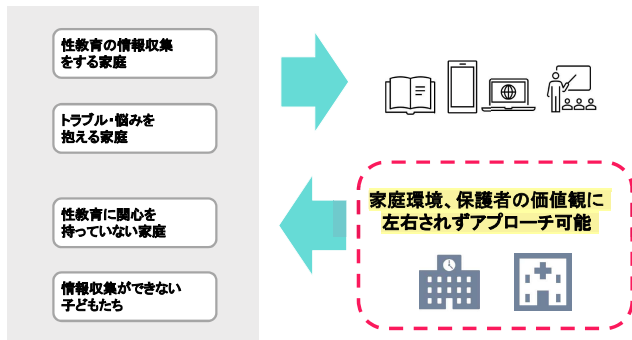
3. 家庭・学校 両輪での 性教育の必要性

家庭と家庭外との連携を



4. 包括的性教育と日本の性教育

家庭と家庭外との連携を



「性教育」って何を教える教育？

日本でイメージする性教育

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
6. 人間のからだと発達
- 7.
8. 性と生殖に関する健康

参考: 国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ
編集: ユネスコ/翻訳: 波井 春夫, 良 香織, 田代 美江子, 福田 和子, 遠辺 大輔/出版: 明石書店/出版年: 2020年

国際セクシュアリティ教育ガイダンス(ユネスコ)

1. 人間関係 **すべてが包括的性教育のテーマ**
2. 価値観、人権、文化、セクシュアリティ
3. ジェンダーの理解
4. 暴力と安全確保
5. 健康とウェルビーイング(幸福)のためのスキル
6. 人間のからだと発達
7. セクシュアリティと性的行動
8. 性と生殖に関する健康



参考: 国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ
編集: ユネスコ/翻訳: 波井 春夫, 良 香織, 田代 美江子, 福田 和子, 遠辺 大輔/出版: 明石書店/出版年: 2020年

5. 「保健師や親子に関わる専門職のための手引き」

厚生労働省「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」より

性教育にはさまざまなテーマがある



出典: 『子どもと性の話、はじめませんか？—からだ・性・防犯・ネットリテラシーの伝え方』著者: 京原由紀, 監修: 産婦人科医 斎藤幸子
出版: CCCメディアハウス

保健師等による幼児等低年齢児の保護者に対する効果的な性教育方法に関する調査研究

調査1 全国の3～6歳の未就学児を持つ保護者を対象にしたウェブアンケート調査

- 調査期間 2021年10月14日(木)～2021年10月15日(金)
- 対象 全国の3～6歳の未就学児を持つ保護者
- 年齢 20～49歳
- 本調査質問数 15問
- サンプル数 2,215
- 調査委託先 マクロミル

調査2 保健師等親口に関わる専門職への聞き取り調査

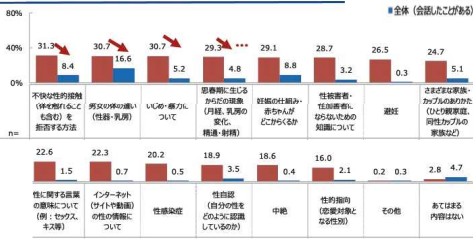
- 調査期間 2021年10月22日(金)～2021年11月29日(火)
- 対象 市町村保健師・保健所保健師・助産師・保育士・幼稚園教諭・小児科医・発達相談員・家庭児童相談室・児童相談所等、児童福祉関連機関の相談員、児童福祉司、児童心理司等、親子に関わる専門職者
- サンプル数 事前アンケート回答者の中から聞き取り調査対象者を抽出。事前アンケート回答者110名、うち聞き取り調査16名

子どもと性の会話はすべき、だけど...

調査1：全国の3～6歳の未就学児を持つ保護者を対象にしたウェブアンケート調査

全体の2～3割の保護者が広く性に関わるテーマについて話すべきと思っているが、実際に会話をしたことがある回答の割合と比較すると乖離があった。

親から話すべき内容/会話をしたことがある内容 ※全ページ全体（親が話す側）

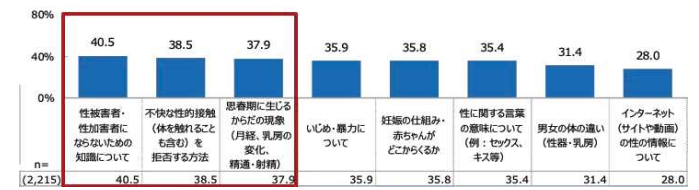


専門家から教えてほしいこと

調査1：全国の3～6歳の未就学児を持つ保護者を対象にしたウェブアンケート調査

実際に専門家から聞きたいと思う内容は「**性被害者・加害者にならないための方法**」「**不快な性的接触を拒否する方法**」「**思春期に生じるからだの現象**」など、専門的な知識が必要になるとと思われるものが上位に挙げられた。

子どもの性について専門家から教えて欲しい内容

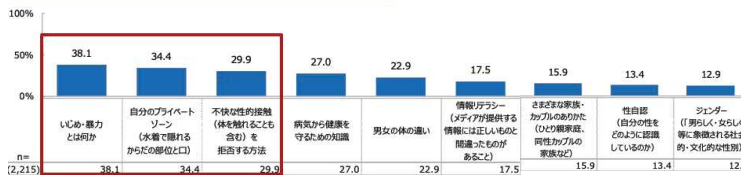


子どもが小学校に入る前に理解してほしいこと

調査1：全国の3～6歳の未就学児を持つ保護者を対象にしたウェブアンケート調査

自分の子どもが小学校入学までに十分に理解すべき具体的な内容としては、**いじめ・暴力とは何か、自分の体・プライベートゾーン、不快な性的接触を拒否する方法等**が上位に挙がる。

小学校入学までに十分に理解すべき内容



「乳幼児期の性に関する情報提供」— 保健師や親子に関わる専門職のための手引き



監修者：

- 和田 和子（大阪母子医療センター 新生児科主任部長、日本小児科学会副会長）
- 池田 裕美枝（京都大学リプロダクティブヘルス・ライフユニット代表）
- 伊藤 美智子（世田谷区役所保育部保育課保育育成支援担当）
- 加藤 承彦（成育医療研究センター社会医学研究部行動科学研究室室長）
- 飯下 和美（都立松沢病院精神科医員・国立成育医療研究センター総合診療部臨床研究員）
- 植父工 由佳（大阪府四條畷保健所 企画調整課長 保健師）
- 土屋 麻由美（府の奨励産所 助産師 NPO法人ピコラーレ副代表）
- 村田 浩子（長岡京市健康づくり推進課保健活動主幹）
- 渡辺 大輔（埼玉大学 基礎教育研究センター 准教授）

（順不同）
研究者・制作：性教育サイト「命育」(Siblings合同会社)

学校で性教育を実施するヒント①

保健室・図書室・トイレでの情報提供

学校内に性教育に関連する絵本・書籍や信頼できる情報が乗っている冊子・リーフレットを設置するトイレでの「お知らせ」などで保健室への誘導など

効果：

- ・性に関する情報提供の場となり得る
- ・何か困ったことがあったときに「先生・保健室の先生に相談してもいいんだ」と、思ってもらえるメッセージになる

学校で性教育を実施するヒント②

外部講師の活用

「はどめ規定」による制限

※「学校における性に関する指導及び関連する取組の状況について」において「**外部講師を活用**」することを推奨

※「厚生労働省と連携し、性に関する指導において産婦人科医や助産師等の外部講師を活用することについて教育委員会へ周知と明記

産婦人科医、助産師、思春期保健相談士などによる外部講師による講演・授業により、踏み込んだ性教育が可能に

依頼方法：自治体、助産師会、命育、NPO、講師に直接依頼など

ポイント：事前の打ち合わせ等により、依頼背景や生徒の様子、内容のすり合わせを行う

6.学校で性教育を実施するヒント

「保健師や親子に関わる専門職のための手引き」

は、厚労省健やか親子21や命育サイトから閲覧・ダウンロード可能です



https://meiiku.com/mhlw_guide/



学校で性教育を実施するヒント③

文科省推進「生命(いのち)の安全教育」

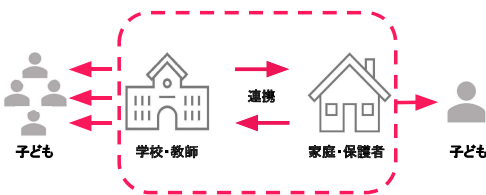


出張講演を行った中学生・高校生の声

「性について、知らないことばかりで、そのことにびっくりしました。」
 「知っている気になっていたけれど、曖昧にしか知らなかったと気づいた。」
 「何度でもいいのでやってほしい。それくらい大事なことだと思います。」
 「体や性欲のことで、自分の力だけでは解決できなかったり、
 知識がなく不安だったりしたことがわかり良かったです。」
 「生理痛がひどくピルに興味があったので、詳しく知れてうれしかった。
 親に相談してみようと思った。」
 「LGBTQの話を聞き、これまで悩んでいたけど『私は私でいい』
 と聞いて、ホッとしました。」

学校で性教育を実施するヒント④

PTAとの連携



Parent(保護者)-Teacher(教師)-Association(組織)

出張講演を行ったPTAからの声

対象: 児童・保護者 向けの性教育講演会

背景: 保護者も一緒に子どもたちと性教育を受けたい という思いから、PTAとして学校へ提案。校長、職員ともに必要性を感じていたところに、タイミング良くPTAがプッシュしたことで実現できました。

受講してみて:

「帰宅後、子どもがたくさん性や身体について質問してくれたのが嬉しかった」
 「保護者と先生方が一緒に話を聞いたのが良かった。家庭でも話をするきっかけになりました。」

出張講演を行ったPTAからの声

対象: 保護者・職員向けの性教育講演会

背景: 少なくとも過去7年間のなかではじめての性教育講演会でした。

PTA内で性教育がテーマの候補とお伝えした時、茶化しているように笑っている男性もいました。これは大真面目に性教育に向き合う機会を提供しなければと、一層強く思いました。

受講してみて:

「講座を終えてみて、性教育の概念が変わりました。私が考えていた「性」はもっとより幅広く、人権や人間関係にも繋がること。学校の先生とも一緒に話を聞けたことで同じ目線になれたことが良かったです。」

まとめ

子どもが自身の体や性の健康に
 疑問や興味を持つのは 自然なことであり
 家庭環境に限らず すべての子どもに性の知識を届けることは重要である

学校や家庭は 信頼できる情報源

になることができる

家庭・学校・医療機関・行政 ...それぞれが連携し

性教育、はじめてみませんか？

8. まとめ



ご清聴ありがとうございました。
 性教育に関して何かあればお気軽にご質問・お問い合わせください

info@meiiku.com